

熊本からの第3報です。

朝、熊本中央 YMCA から手伝いに来ている3人のYM関係者とYMCAの車で阿蘇に向かう。平日のせいか道中混雑もそれほどなく1時間10分で熊本YMCAの阿蘇キャンプに着く。山田所長にオリエンテーションを受け、その後阿蘇キャンプが関係している3つの避難所、車帰自治会館、跡ヶ石自治会館、阿蘇西小学校を回る。その後、避難所に医療チームを派遣しているADROを訪ねて、地域の医療供給体制を聞く。午後、熊本YMCAが運営する尾ヶ石保育所に行き、昨日大江教会でお会いし、阿蘇での感染症が心配と話された久保職員から話を伺う。5時前に中央YMCAに戻り、報告、ミーティングに参加する。

## 私の感想

1. 阿蘇も医療供給体制は足りている。今後も供給体制は維持されると期待される。  
余震が収まってきたせいか、各避難所の人数が減りだした。阿蘇西小学校（400人～250人）、車帰自治会館（80人～50人）、跡ヶ石自治会館（50人～20人）。阿蘇西小学校へはDMATチームなどが頻回に巡回し、また夜間も自衛隊の看護婦の当直などもある。小さな避難所へも看護師、保健師などの巡回があり、必要があれば医師の巡回もあるとのこと。阿蘇地域は阿蘇地域医療センター内にADRO（Aso Disaster Relief Organization?）が開設され、昨日も30人近い医療スタッフ（医師、看護師、調整員などが）仕事をしていた。代表医師2人に話を伺う。大体阿蘇の支援体制は充足している感じで、足りないのは南阿蘇郡、特にナースが足りないと聞いているとのこと。
2. 避難所での感染症は阿蘇西小学校でノロ患者1名、疑い数名であった。ノロの患者も軽症で隔離されておりORSで回復に向いている。他の避難所も私の見る限り落ち着いていた。
3. YMCAの久保さん、山田所長の要望もあり、もし人が得られれば、阿蘇キャンプに看護関係者一人がここ1、2か月交代で常駐し、ボランティア関係者、避難者の健康管理、予防に当たるのが望ましい。  
  
4月26日から阿蘇キャンプにボランティアセンターがオープンし全国からボランティアが集まって来る。（阿蘇キャンプの収容人数80人、本棟、キャビンからなり、ベースキャンプにするには申し分ない施設。ふろ、食事、水、電気、インターネット環境あり、建物頑丈、山崩れなどの心配もない。）
4. 中央YMCA職員300人、被災している職員も多いと聞く。事務局長からの要望もあり、心のケアに当たる精神科医、臨床心理士などのサポートが望まれる。具体的には週に何回か、来ていただき職員のケア、避難所を回り相談などに当たっていただく。

今日、26日はYMCAが関係するもう一つの熊本市内の避難所、御船を訪ね、あと医師会、保健センター、熊本県の医療対策室などを尋ねる予定。予定を一日繰り上げ明日熊本を離れ、夜JCMA福岡部会の集まり（福岡）に出席し、熊本の状況を説明する。